

米国企業景況感の改善

ポイント① 製造業は6カ月ぶりに50超

2月3、5日に発表された1月の米ISM（サプライマネジメント協会）景況感指数は、製造業が50.9と、拡大と縮小の分岐点である50を6カ月ぶりに上回りました。非製造業は2カ月連続して上昇し、55.5と昨年8月以来の水準に高まりました。

こうした米企業景況感の改善は、米中通商交渉の第一段階合意が成立し、米中経済摩擦を巡る不透明感が緩和されたことの影響が大きいようです。

ポイント② 雇用は20万人以上の増加

7日に発表された1月の米雇用統計では、非農業部門の雇用者数は前月比22.5万人増と12月の14.7万人増を上回り、堅調な伸びを記録しました。

一方、失業率は3.6%と12月より0.1%上昇しましたが、依然、歴史的低水準に留まっています。失業率は昨年4月以降3.5～3.7%の範囲で推移しており、米国経済が大きく減速も加速もしていないことを示唆しています。

ポイント③ 中国景気鈍化の影響に注意

実質GDP（国内総生産）は昨年10-12月期には前期比年率（四半期の伸びを1年当りに換算した値）+2.1%と、米国経済は全体的には緩やかな成長を続けています。ただ、個人消費はやや鈍化し、設備投資は小幅減少するなど、国内需要にそれほど勢いは無いようにも見受けられます。

新型コロナウイルスの感染拡大で中国景気の鈍化が懸念されます。対中貿易や米国企業の中国での活動抑制などを通じて、米企業景況感にも影響が及ぶ可能性には注意が必要でしょう。

図1：米ISM景況感指数

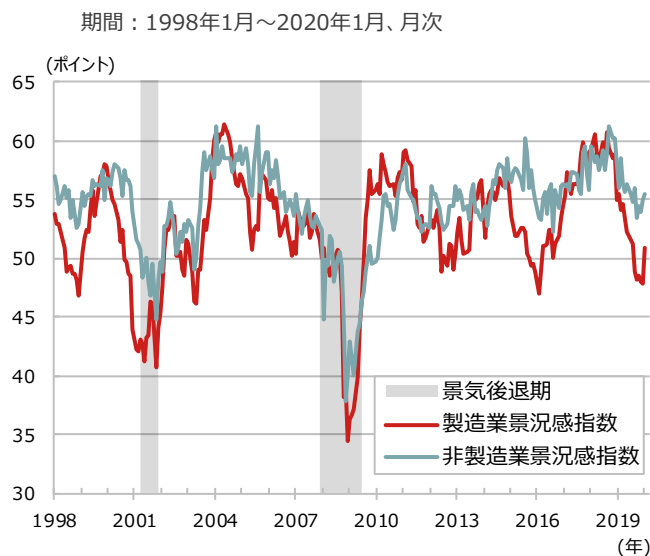
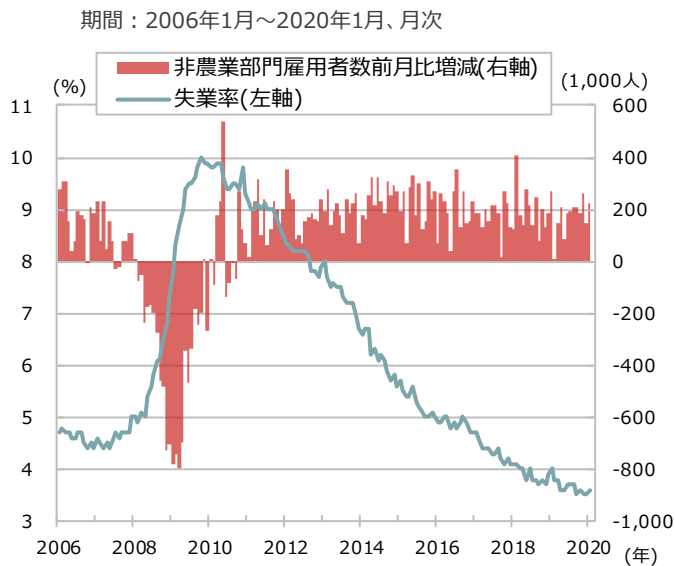


図2：米非農業部門雇用者数と失業率



重要
イベント

2月13日 米消費者物価指数（1月）
2月14日 米小売売上高、米鉱工業生産指数（1月）